

講義名	対)19～日本語D（話す）/15～日本語D【留学生科目】			
担当教員	辻 周吾			
開講期・曜日・時限	前期 火曜日 3時限	授業形態	演習	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考

主題と概要

毎回、日本人と外国人のコミュニケーション・ギャップなど、異文化コミュニケーションに関する事例を紹介します。ケーススタディにおいて、これらの中に隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題をみつけます。また、ディスカッションやスピーチに必要な日本語能力を身につけます。

到達目標

- 現象や事象の中に隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題をみつけられるようになる。
- ディスカッションやスピーチに必要な日本語能力を身につけ、活用することができるようになる。
- 真なる価値をもつ学生同士が議論することにより、新しい視点と豊かな発想など、新しい価値観を身につけられるようになる。

提出課題

ワークシート、宿題など、授業中に指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

レポートの場合は、学生からの要望により、講評による説明に応じる。

評価の基準

授業課題の提出（50%）、中間の課題発表（20%）、期末の課題発表（30%）

履修にあたっての注意・助言他

・毎回、課題を出し、それを提出してもらいます。

教科書				

プリント資料及び参考文献

授業中に、プリント資料を配布します。

授業計画

第1回： オリエンテーション/日本語に関するテーマ
第2回： 言語文化に関するテーマ
第3回： 異文化理解に関するテーマ
第4回： 異文化コミュニケーションに関するテーマ
第5回： 非言語コミュニケーションに関するテーマ
第6回： コミュニケーション・ギャップに関するテーマ
第7回： コミュニケーション摩擦に関するテーマ
第8回： 課題発表の準備
第9回： 中間の課題発表
第10回： ビジネスコミュニケーションに関するテーマ
第11回： ビジネス日本語に関するテーマ
第12回： 異文化マネジメントに関するテーマ
第13回： 異文化経営に関するテーマ
第14回： 課題発表の準備
第15回： 期末の課題発表

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・事前に配布する資料について大意読みと探し読みを行い、ワークシートの課題を理解する...各授業2時間程度
- ・授業中に覚えた語彙や文法を確認し習得する...各授業2時間程度

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

留学生を対象とした科目群で、日本語の話す技能について実用的かつ基礎的な語学力を修得するとともに、豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持った人材を育成する科目である。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

異文化コミュニケーションに関するケーススタディにおいて、学生同士、そして教員と学生間が議論する機会を設ける。

実務経験の有無及び活用

備考